

配信音源再生への対応

1) はじめに

古くは NAXOS が配信サービスを始めたことで、配信に取り組むようになり、その後ベルリンフィルの配信であるベルリンフィルデジタルコンサートホールの年間チケットを購入しました。コロナ禍の下では、あちこちのコンサートホールの配信も経験し、現在恒常的に受信しているのは、オーディオ資料室に掲載しているリストのとおりとなっています。

配信サイトリスト 2

これらの音質対策についてはオーディオ資料室に掲載していますが、現時点で再度整理することにします。

音楽配信の音質対策

2) 配信音源再生のためのインフラ整備

配信音源再生は、非オーディオ機器を使用しますので、オーディオ機器とは違ったアプローチが必要となり、下記のような対策を採ってきました。

ルーターは、NEC のギガ対応のものを選定しました。

スイッチングハブは、メルコシンクレッツが最初に音楽用として開発した BS-CS2016 を使用しています。

PC は Window8 機を経て、iCore7、64bit、SSD タイプの Window10 機を使用しています。PC の下にはアリエナイザーを敷いています。

PC と Sonica DAC の USB 接続には USB リベラメンテを使用し、USB アクキュライザーを介在させ、Sonica DAC にもアリエナイザーを敷いています。

LAN ケーブルは、すべて LAN リベラメンテを使用しています。

電源については、上記の音楽配信の音質対策に記載のとおりです。

Spotify は PC だけでなく、HFAS1-S10 経由でも受信、再生できますし、ベルリンフィルデジタルコンサートホールは、DMR-UBZ1 でも受信、再生できます。

3) 仮想アースとアースケーブル

仮想アースについては、上記の音楽配信の音質対策に記載のとおりです。アースケーブルは光城精工の LAN ポートあるいは USB ポート用のアースケーブルを使用しています。

4) LAN アクキュライザー

LAN アクキュライザーについては、上記の音楽配信の音質対策に記載のとおりです。

5) LAN iSilencer とフェルトダンプ LAN 端子

LAN iSilencer については、上記の音楽配信の音質対策に記載のとおりです。上記の音楽配信の音質対策の報告作成以後、スイッチングハブとルーターの空きポートにはフェルトダンプ LAN 端子を装着しました。

3) 項の仮想アース、4) 項の LAN アクキュライザー、5) 項の LAN iSilencer とフェルトダンプ LAN 端子はいずれも効果があり、仮想アースはグラウンドノイズの軽減、LAN アクキュライザーは LAN ケーブル周囲のノイズの軽減、LAN iSilencer はガルバニックアイソレーション、フェルトダンプ LAN 端子は LAN ポート近辺の微振動抑制に効いているものと思われます。

6) 高音質配信

高音質配信のプラットフォームとして LiveExtreme での配信を要時行っていますが、恒常的にこのプラットフォームを使用したクラシックの配信サービスはありません。PrimeSeat は IJ 運営の配信サイトであり、DSD の配信など意欲的な試みが行われていましたが、残念なことに休止になってしまいました。

7) 音楽配信の現状

音楽配信の現状として、下記の書籍が発刊され、配信サービスやそれらを取り組むための基礎から応用まで詳細な解説が記載されています。

[「ネットオーディオのすすめ 高音質定額制配信を楽しもう」山之内正著\(講談社\)](#)

なお、当方がまとめたものとして、オーディオ資料室に下記を掲載しています。

[日本における音楽配信の現状](#)

現在恒常的に受信している配信サービスは冒頭に述べたリストのとおりですが、もっとも充実しているドイツグラモフォンのサービス STAGE+のコンテンツについて紹介しておきます。

まず、アルバムとしては、ドイツグラモフォンのアナログマスター時代からのドイツグラモフォン専属の演奏家や演奏団体のアーカイブから新譜までが享受できます。映像付きのものとしては、1970 年頃からの貴重な演奏から最新の収録までが提供されています。なかでもありがたいのは、各地の音楽祭や登竜門の音楽コンクールなどのライブ収録や、本年がブルックナー生誕 200 年にあたることからブルックナー特集を組むなどテーマを絞った特集が配信されることです。その事例をオーディオ資料室に下記を掲載しています。

[2023 音楽祭リスト](#)

ドイツグラモフォンの契約演奏に限定されますが、新旧とりまぜて充実したコンテ

ンツがあり、最近の動向を知る上でもありがたい存在です。

上記のように、配信は通常のオーディオとは違ったデジタルノイズ対策などを肌理細かに実施していく必要がありますが、成果が得られれば、通常のパッケージメディアにない利便性と相まって、音楽祭のライブ配信などリアリティに富む音楽体験を実現することができます。

以上